

学校の在り方地区検討委員会（下北地区）

【第2回】概要

日時：令和8年2月3日（火）

13：30～15：25

場所：プラザホテルむつ

プラザホール

<出席者>

委員

山本委員、野崎委員、太田委員、阿部委員、岩本委員、奥島委員、村上委員
曾根委員、岸委員、久慈委員、坂部委員、中塚委員、高屋委員、高瀬委員
今井委員（進行役）

1 開会

2 事務局説明

事務局が資料1について説明した。

3 意見交換

（1）全日制課程の学校規模・配置について

○ 地域共育校である大間高校の学級数は、他校の学級数の増減とはリンクしないという認識で良いか。また、今回示された学級減の案について、対象が田名部高校の1案のみであるのはなぜか。

→（事務局）地域共育校の学級減は別のルールに基づくものであるためリンクしない。

また、今回の資料は、第1回において委員からいただいた意見を具現化したものである。学級減に関する具体の意見については、これ以外には出なかった。

○ 資料に2つの案が示されているが、一部の意見だけを取り上げて、私たち委員の意見だとすることはおかしいのではないか。前回、様々な意見が出たはずで、このような結果にはなっていないと思う。“それぞれの高校で何を学べてこの学級数になる”という説明が必要ではないか。高校を選択するには、何を学べるかといった内容が大事であり、それが見えない中で議論するのは難しい。

→（事務局）今回の資料は、第1回において委員からいただいた意見（結論としてまとめた意見ではない）を具現化したものであり、これを基に様々な意見をいただきたい。また、中学校卒業生数の推移にも視点を置きつつ、各校に期待したい学びという観点からも意見をいただきたい。

- 学級減の対象とする高校名を挙げて議論するのは難しい。大間高校は、現在の第2期実施計画中に1学級になる可能性があるとのことなのに、今回の資料に案として出されないのはなぜか。大間高校が2学級から1学級に減り、さらに田名部高校と統合校のうち1学級減ることがあるのか。
- (事務局) 第2期実施計画において、地域校である大間高校は入学者数の状況により学級数が減る可能性があるが、確定しているものではないため2学級の表記としている。
- 次期計画期間内で2学級減り、全体で10学級となるのは了承できない。
- (事務局) 大間高校については、地域校・地域共育校におけるルールに基づき、1学級減となる可能性があることを第1回で説明した。その上で、次期計画期間内における1学級減に対応する案を検討していただきたい。
- 第1回では、下北地区における中学校卒業生数を示した上で1学級減ずる必要があるという説明だったが、大間高校を含めて2学級減ということであれば、地区全体の卒業生数と学級減の理屈が合わないのではないか。
- リンクしないとのことであるが、下北地区全体の高校の在り方を検討する場であるため、大間高校を除き、むつ市内の高校だけの議論をするのは違うのではないか。
- 大間高校が学級減となった場合でも、むつ市内の高校と一緒に在り方を考えていく必要がある。
- (事務局) この検討委員会は、大間高校も含めて地区の学校の在り方や学びについても議論していただくもの。
- 大学進学に重点を置く高校と職業教育を主とする高校の棲み分けが必要だと思う。
- 現在の40人を標準とする学級編制は、地域の実情に合っていないと考えるので、機会を捉えて訴えていく必要がある。
- 大間高校存続のために資金や知恵を出しながら地域で取り組んできた。下北地区全体の在り方として、大間高校についても一緒に考えていきたい。
- 下北地区統合校はまだ開校しておらず、どのような高校なのか情報がない中、他の高校と同じ括りで協議することは疑問である。
- (事務局) 先般、下北地区統合校開設準備委員会から報告書が提出された。具体的な教育課程等は、次年度に設置する開設準備室で検討していく。次回、報告書を配布するので、参考としていただきたい。
- 田名部高校が1学級減となった場合の影響等、考えられることはあるか。
- (田名部高校) 定員割れにより全入状態であり、学力層が広がっている中で、一般的には中間層のレベルに合わせて授業を行っている。1学級減らせば、相応の学力の生徒へ対応することができるものとする。

- 通学の時間や費用を踏まえ、地区外の高校も選択肢としているという話を聞くが、スクールバスを整備し、生徒が地区外へ流出しないように考えることも必要である。
- どの高校で何を学べるかが大事である。原子力関連等の地域の産業を生かした学びを提供するなど、地区外から生徒を呼び込むような方策を考えるべきである。
- 大間高校での取組を紹介いただきたい。
→ (大間高校) 地域との交流やきめ細かな指導を行っており、肯定感を持って自身の活動について話すことができる生徒が増えている。今後もこの特色をアピールし、大間高校に入学してもらえるように頑張っていきたい。
- 部活動を理由とした(地区外の)私立高校からのアプローチが増えてきている実態もある。
- いじめの少なさや、他にはないユニークな取組をアピールして生徒を呼び込むべきである。
- それぞれの学校で何が学べるかが不明確なままでは議論が難しいと思う。

(2) 定時制課程・通信制課程の学校配置について

- 前回、田名部高校への通信制課程の設置に関する意見があったが、定時制課程の現状と、通信制課程との併置について状況を説明いただきたい。
→ (田名部高校) 現在、8人の教員で約50人の生徒を指導している。また、定時制課程の教室は、全日制の1学年の教室と共用している状況にあり、人力的、施設のにも余裕がないため、さらに昼間定時制課程や通信制課程を設置することは非常に厳しい。
- 夜間は交通機関がなく通学困難な生徒がいるため、昼間定時制の設置を改めて要望したい。
- 通信制課程への需要は高く、学びの場として重要である。スクーリングの場所が課題とのことなので、公共施設等の活用も検討すべきではないか。

(3) その他の意見

- 県教育委員会における少人数学級編制についての検討状況を教えていただきたい。
- (事務局) 少人数学級編制に対する意見は、各地区でもいただいていることから、県教育委員会でも検討する必要があるという認識である。学級編制については、国の法律に基づいているものなので、見直しについて国に要望している。

- 参考資料3 (高校教育に関する基本方針骨子) に、国からの交付金の対象となる取組について記載があるが、それぞれ事例があれば教えてほしい。

- 北通り地域では、むつ養護学校への通学に係る負担が大きいため、大間高校にむつ養護学校の分教室を設置してほしい。

- 各校の特色について、次回に資料として提示してほしい。

4 閉会